



# ひかりのこ

2021年度 **夏号 (7・8月)**

日本キリスト教団

名古屋新生教会 教会学校だより

名古屋市西区天神山3-7 TEL.052-531-1820

HP: <http://nagoya-shinsei.church/>

昨年は1学期の長期休校の影響で短い夏休みでした。コロナの影響でまだまだいろんな制限はあるけれど、今年は通常の夏休み！長期予報では例年より暑さが厳しくなると予測されています。東京オリンピックも開催予定ですが、この夏、自分にとっての金メダルに挑戦しよう！

## 7・8月の礼拝 単元13: 山上の説教

月日	週 題	聖書箇所	教会学校礼拝 (小5～中高生) 9:00～9:30	分級Ⅰ (小1～小4) 分級Ⅱ (小5～中高生) 9:35～9:55	こどもれいはい (幼児～小4) 10:00～10:20
7月4日	本当の幸い	マタイ福音書 5:1-12	武岡 基	分級は 当面の間、 お休みします。  状況により、 プレイ・タイム とすることも ありますが、 参加は自由 です。 (詳細は下記参照)	武岡路実
7月11日	地の塩・世の光	マタイ福音書 5:13-16	武岡路実		安達いづみ
7月18日	和解する	マタイ福音書 5:21-26	林 小夜子		武岡 基
7月25日	敵を愛する	マタイ福音書 5:43-48	安達正樹牧師		安達正樹牧師
8月1日	神の義を求める	マタイ福音書 6:19-34	武岡 基		武岡路実
8月8日	さばかない	マタイ 7:1-5 ガラテヤ 6:1-5	武岡路実		安達いづみ
8月15日	求め、探し、たたか	マタイ 7:7-11 ルカ 11:5-13	林 小夜子		武岡 基
8月22日	岩の上に建てた家	マタイ福音書 7:24-29	安達正樹牧師		安達正樹牧師

## 単元14: 士師の時代(ヨシュアの後の古代イスラエル)

8月29日	ギデオンの召命	士師記 6章	武岡 基	(状況を見て) プレイ・タイム	安達正樹牧師
-------	---------	--------	------	--------------------	--------

○礼拝はいつもどおりです (教会での礼拝を休止する場合は、またお便りでご連絡します)

◆教会学校礼拝 (小5～中高生) 9:00～

◆こどもれいはい (幼児～小4) 10:00～

分級はありませんが、礼拝後にはCS館 (ふたば館) で気分転換してもらっても構いません。宿題を持ってきて自習するのもよし、友だちと語るのもよし…

ただし、各自感染防止対策をお願いします。また、人数を制限することもあります。

## ○サマーキャンプ 中止

一昨年まで、岐阜県白川町にある蘇原教会にてサマーキャンプを行ってきました。山に囲まれ自然豊かな中で、川遊びやバーベキュー、テントでの宿泊などを通して、友だちと楽しい時間を共にすることができました。たいへん残念ではありますが、昨年に続き今年度も中止とします。様々な情勢をみて、他の行事などを計画し、実施できる状況であると判断できればみなさんにお知らせします。来年こそはサマーキャンプができますよう祈っています。

## 7月・8月の聖句

平和を実現する人々は、幸いである、  
その人たちは神の子と呼ばれる。

(マタイ 5:9)

## 7月・8月のさんびか♪

こどもさんびか 140 (みんなでへいわを)

7月から8月の礼拝では、「イエスさまの山上の説教」を学びます。聖書の中で度たび記されている「イエスさまが山に上られた」という出来事は、たいへん重要な出来事を意味しています。ですから「山上の説教」も、ただ単に「イエスさまが山の上でお話しになった」ということだけでなく、そのお話しそのものは、私たちにとても大切な内容であるということの意味しています。

8月は平和を意識することが多いですが、今月のさんびか140「みんなでへいわを」は、今月の聖句に合わせて選びました。作詞者の中村吉基さん(1968-)は石川県に生まれました。小学校の時に東京・杉並教会の教会学校に通い始め、1983年に石川・金沢教会で受洗しました。中学生の頃から詩の創作を始め、大阪芸術大学文芸学科で詩学を専攻、卒業後は出身地の金沢の高校で国語の教師になりました。その後、日本聖書神学校へ進み、卒業後すぐに新宿での開拓伝道を始めました。作詞者が神学生時代に東京・霊南坂教会の教会学校のペンテコステ礼拝で、幼稚園児から高校生に向けて各国語の「平和」の文字を紹介しながらメッセージをした時、子どもたちが喜んで「ピョンファ」「ピース」と声を発しているのを目の当たりにしました。その日のうちに作詞し、後に友人である塩田尚史さんに作曲を依頼してこの賛美歌が生まれました。

作曲者の塩田尚史さん(1957-)は京都府に生まれました。関西学院大学社会学部で視覚障がい福祉を専攻し、現在はキリスト教学校教育同盟事務局に勤務しています。関西学院聖歌隊で教会音楽に接し、合唱とパイプオルガンを学びました。東京・東中野教会でオルガニスト、聖歌隊指揮者、音楽委員長を務めています。また『讚美歌21』では編集実務にあたりました。この賛美歌は後半で各国の言葉で「平和」を叫びますが、前半のメロディー部分で「平和を叫ぶ」気持ちを高めていってほしいとの願いを込めて作曲されたそうです。

この賛美歌が韓国の教会に紹介された際、作詞者の中村吉基さんは一つの要望を出しました。それは、「ピョンファ」を「へいわ」に替えて歌ってほしい、というものでした。18か国語の最初に日本の子どもたちは「ピョンファ」、韓国の子どもたちは「へいわ」と歌うことで、お互いを思いやしてほしい、そのような小さなことから未来には大きな「平和」を築き合う隣人になってほしいという祈りが込められています。

後半部分は各言語ごとにリーダーとみんなで、(ピョンファ)「ピョンファ」、(ピース)「ピース」のように、コール&レスポンスすることもできます。



がたんじょうびおめでとう🎂

7・8月生まれのお友だち